

【23】八幡神社と年中行事

長元3年(1030)、源頼信が平忠常の乱平定の祈願をここで行い、戦勝に感謝し創祀したものとされています。太田道灌は当社の分霊を城内の守護神として奉じたといいます。境内はまちなかに貴重な緑を提供してくれる空間で、さまざまな行事が四季折々の風物詩となっています。



【13】喜多院 【14】仙波東照宮

仙波東照宮は日光、久能山とともに三大東照宮とされます。將軍家の威光を示す極彩色の本殿は、銅瓦葺、三間杜流造で重要文化財です。家康が亡くなったとき、喜多院の天海僧正が久能山から日光に移葬される遺骸を喜多院大堂に留め、大法要を営みました。これが東照宮本地堂の初めです。その後、天海はこの地にあった中院を現在地に移し、寛永10年(1633)に東照宮を遷祀しました。



【19】三変稲荷神社古墳

川越で最も古いとされる古墳です。長辺 25m、短辺 20m、現存高 1.8m の方墳で、築造

は4世紀後半の古墳時代前期。出土した甕龍鏡(だりようきょう)は、中央政権が下賜するものとしては、最も格式の高い三角縁神獣鏡に次ぐものとのことで、この古墳の被葬者の地位を知ることができます。

【20】仙波氏館跡と新河岸川

平安末から鎌倉時代の地頭である仙波氏は、『保元物語』の仙波七郎高家をはじめ、『吾妻鏡』にもその名がみられ、鎌倉幕府に従い活躍した武蔵武士として知られます。

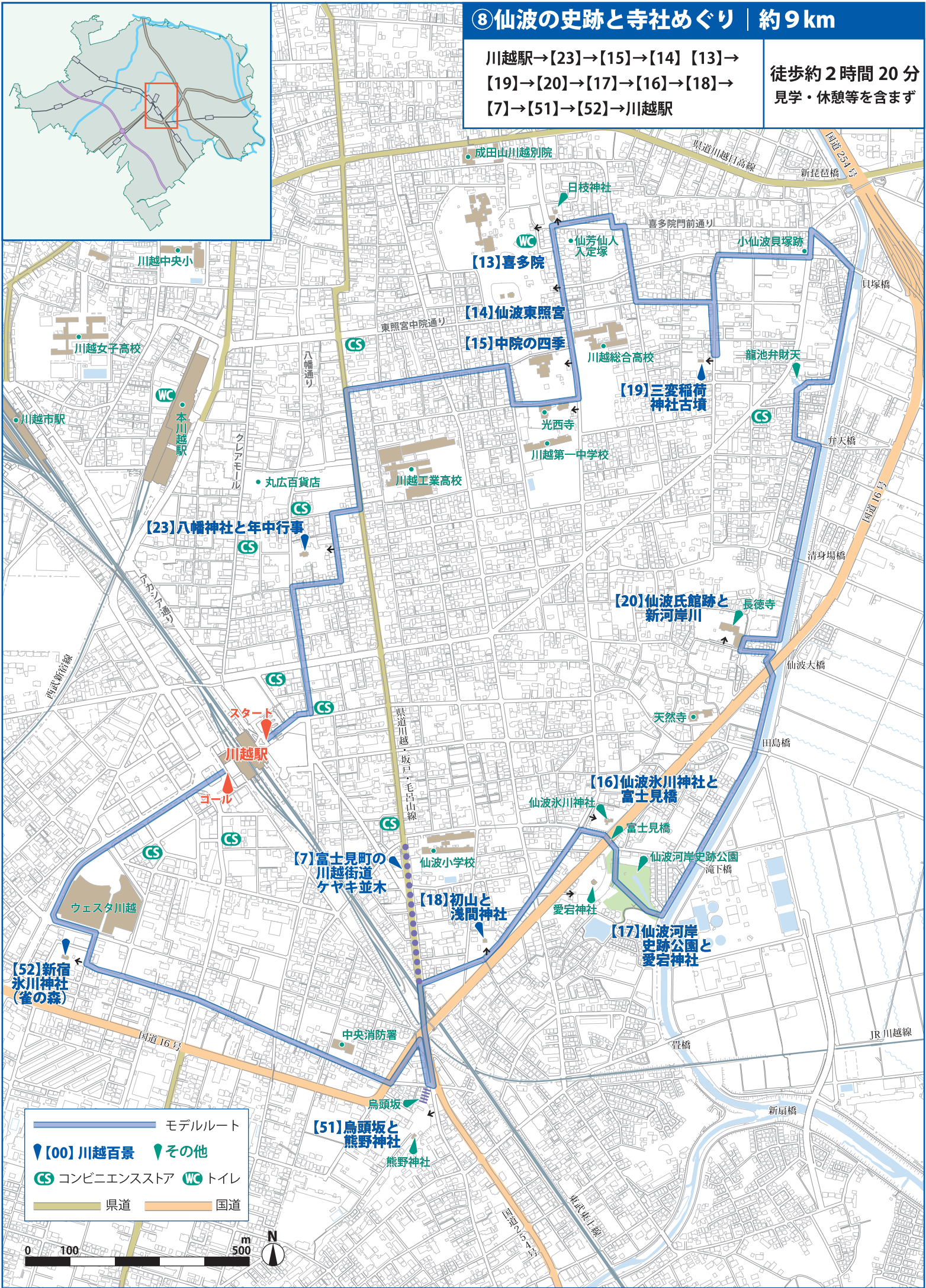
長徳寺は、仙波氏の館にあった持仏堂が基とされています。ここから見晴らす新河岸川は、桜と菜の花が同時に満開を迎える名所となっています。



【17】仙波河岸史跡公園と愛宕神社

河岸場の遺構を中心とした仙波河岸公園は、水と緑の憩いの場で、園内には河岸場跡や仙波の滝、自然観察湿性地などを回遊する遊歩道や木デッキ歩道が整備されています。公園から崖上に続く階段をのぼると、仙波愛宕神社と延命地藏尊が祀られています。

愛宕神社は父塚(愛宕神社古墳)とも呼ばれる6世紀中頃の古墳(円墳)で、市指定史跡となっています。



⑧仙波の史跡と寺社めぐり | 約9 km

川越駅→【23】→【15】→【14】【13】→
【19】→【20】→【17】→【16】→【18】→
【7】→【51】→【52】→川越駅

徒歩約2時間 20分
見学・休憩等を含まず

【16】仙波氷川神社と 富士見橋

平安時代後期の延久年間(1069～1074)、仙波氏の創建とされています。境内にある小規模な円墳や、周辺の古墳、集落跡などから、この辺りは古くから人の住み処であったことがわかります。昭和11年(1936)完成の富士見橋はアーチが美しいコンクリート橋です。この下を通る道は、仙波河岸と町を結んでいます。



【18】初山と浅間神社

川越には富士信仰に基づく富士塚が多く残されています。仙波浅間神社では、毎年7月13日に富士山信仰に由来する「初山」が行われます。子供を授かりたい人や、赤ちゃんを連れた親などが参詣します。赤ちゃんは額にはんこを押してもらい、無病息災を祈願します。初子の時には、夏を健康に過ごすように仲人や近親にあんころもちと団扇を配る習わしがあります。



【7】富士見町の川越街道ケヤキ並木 【51】烏頭坂と熊野神社

烏頭坂(うとうざか)は、舟運が盛んなころ、河岸で荷揚げされた荷物を運ぶ際に必ず通った急坂の難所でした。昔は道の両側に杉並木があり、風情があったといいます。現在は往時のイメージを継承するケヤキ並木となっています。

江戸時代の参勤交代では、三番町から川越城下に入る手前、旧大仙波村のこの辺りで休息を取り、湯茶の接待を受け、隊列を整えた上で城下に入ったそうです。烏頭坂を上りきる途中には地域の産土神である熊野神社があり、桜の名所として市民に親しまれています。



【52】新宿氷川神社(雀の森) (あらじゅくひかわじんじや)

複雑な架構と優れた江戸彫が見事な市指定文化財です。境内社の浅間社(富士塚)では、9月1日にお焚き上げが盛大に行われます。富士山信仰に基づく行事で、願い事が書かれたお札を火の中に投げ、火に焔られた札が高く舞うほどご利益があるといいます。境内では、祭囃子や民謡が奉納され、夜になり最高潮に達する頃、富士講の行者15名ほどが白装束の富士行衣に身を清め、鈴を振り神社に経文を唱え祈願します。

